

運動の好き嫌いとそのきっかけに関する研究

松田侑佳 (埼玉大学)

1. 目的

現在、運動好きの子どもを増やし、運動嫌いの子どもの減らすことが課題となっている。そこで本研究では、大学生を対象に運動の好き嫌いの実態とそのきっかけ(小学校時代と中学・高校時代)を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 方法と対象

質問紙と web アンケートを用いて、大学生 315 名を対象として調査した(有効回答数 298 名)。

2) 質問項目

下記の質問項目を設けた。

- ①年齢、性別等
- ②スポーツ系団体(サークル)への所属状況
- ③体育・スポーツ活動の実施状況
- ④現在の運動の好き嫌い
- ⑤そのきっかけ(小学校、中学・高校時代)

3) データ分析

クロス集計及び自由記述の分類を行った。

3. 結果と考察

集計の結果、運動好きの学生は 243 名、運動嫌いの学生は 27 名であった(表 1)。運動の実施状況及びスポーツ系団体への加入状況と運動の好き嫌いとの関係を調べた結果、運動嫌いの学生は運動好きの学生よりも運動の実施が少なく、スポーツ系団体に加入していない割合が高かった。

また、運動が好きになったきっかけ及び嫌いになったきっかけを分析した結果(図 1・図 2)、運動好きの記述では、能力に関する記述が多く、「マット運動や鉄棒などでみんなより上手にできた」などの記述があった。また、小学校時代では個人的交流に関する記述も多く、「休み時間に友達とサッカーをしたこと」などがあつた。中学・高校時代では、部活動に関する記述も多くみられた。

一方、運動嫌いのきっかけでは、能力に関する記述が多く、「順位がつくものは全て最下位であつた」などの記述があつた。

4. まとめ

大学生を対象に、運動好き・運動嫌いの実態とそのきっかけを調査した。運動好きの学生はどの時代も共通して能力に関する記述が多く、小学校時代では個人的交流、中学・高校時代では部活動に関する記述が多かつた。一方で、運動嫌いの学生は、どの時代も共通して能力に関する記述が多く、先行研究と異なり恐怖に関する記述はほとんどなかつた。したがって、運動好きを増やすためには、授業の充実により能力向上を保証することが重要であり、授業内でのグループ活動等を充実させることで個人的交流を増やしていくことが必要である。

表 1 運動の好き嫌い×スポーツ系団体への所属

	所属	非所属	計
運動好き	178	65	243
運動嫌い	9	18	27
計	187	83	270

「どちらでもない」は除いている

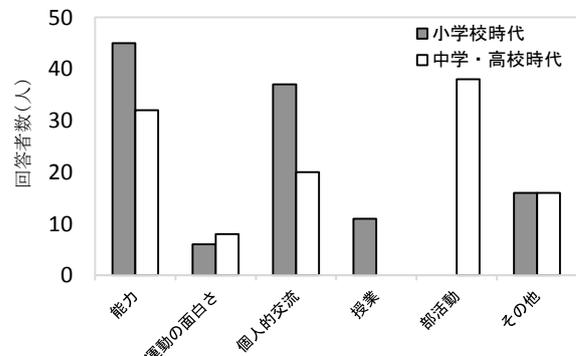


図1 運動が好きになったきっかけ

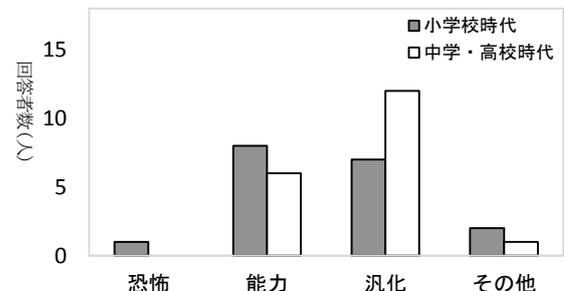


図2 運動が嫌いになったきっかけ